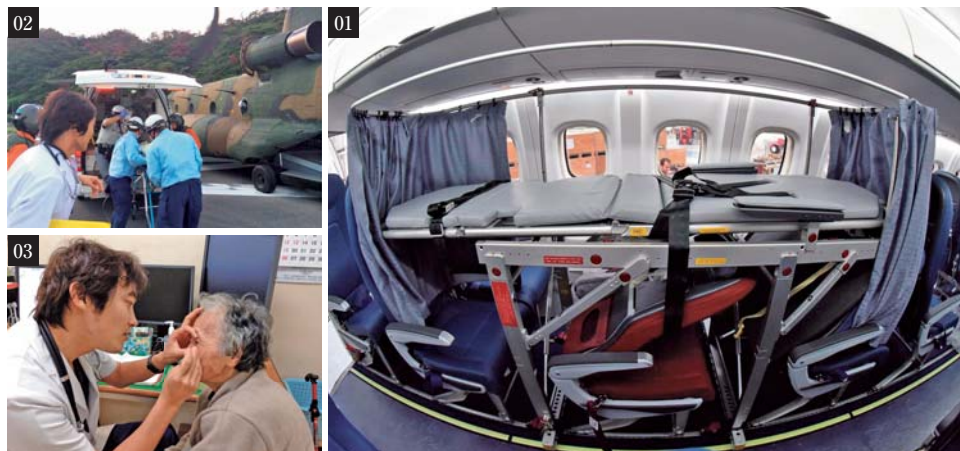


JAC 新機種 ATR42-600 型機就航 離島の医療を支える路線

体調を崩したり、ケガをしたとき、誰もお世話になる病院。

離島では一定の医療体制は整っているものの、患者さんをより大きな病院へ搬送するケースがあります。その一端を担う、JAC の新機種と取り組みについてご紹介します。

私たちが大切に考える4つの分野 ▶ 〈日本と世界を結ぶ〉 〈安全・安心〉 〈次世代育成〉 〈環境〉



※写真は実際の機体とは異なります。

01. 搭載可能になったストレッチャー。簡易型だった以前に比べ、さまざまな症状の患者さんを運べる。02. 急患

を自衛隊のヘリコプターで搬送することも。03. 離島で暮らす人々にとって、医療体制の充実はとても重要。

離島で働く医師から
ニーズを把握する

JALグループの運航路線ネットワークのなかには、離島で暮らす方々の生活に密着している路線が存在します。鹿児島空港に本拠地を置く日本エアコミューター（以下、JAC）は、鹿児島県奄美群島12市町村の出資を受けて、島々を結ぶ離島路線を多く運航しています。4月26日、これらの路線で最新鋭機 ATR42-600 型機が運航を開始します。ATR42-600 型機は、従来の SAA340B 型機に比べて、座席数が増え、エンジン音が静かになるなど客室内の快適性がアップ。さらに、以前は簡易型の医療用のストレッチャーしか搭載できなかったのに対し、ATR42-600 型機では患者さんの体位を楽に保つ角度調整や、長さや幅の微調整可能な充実仕様のストレッチャーが搭載可能になります。よって、患者さんを搬送できるケースが拡大。今回の新型機就航においては、離島の医療に奔走する医師たちの声も、大きなきっかけの一つとなりました。

多くの患者さんによりよい
医療を提供するために

こうした声から JAC ではストレッチャー搬送のニーズを再認識。これまで実績はありましたが、座席の背もたれを倒してシートベルトで固定する簡易なタイプで、搬送で

にお話をしていたりなど、病院の関係者との交流を行っています。その取り組みの一環として、奄美群島各島の医療に携わる『医療法人徳洲会奄美ブロック総合診療研修センター』の平島修医師に、先日 JAC 本社で講演していただきました。そのなかで平島医師は特に次の点を強調しました。「離島の病院で急患が発生した場合、自衛隊のヘリコプターに搬送の要請を行うのですが、患者さんの容体によっては、要請すべきか非常に迷います。そういうときに、本格的なストレッチャーが搭載できる定期便があれば、大きな病院に患者さんを搬送でき、より充実した医療を提供できるケースは多くあります。JACさん、もっと患者さんを運んでください」。

さる患者さんの状態に一定の要件があるため、利用は限定的でした。そこで JAC では新機種の就航に当たって、離島の短い滑走路での運航性能や経済性能に加え、最新の衝撃耐性基準をクリアし、より多くの患者さんにご利用いただけるよう充実仕様のストレッチャーが搭載できることを必須条件としたのです。世界的にも、短距離路線を運航する小型機に充実仕様のストレッチャーを装着して運航するケースは少ないことから、JAC は航空機メーカーと幾度となく協議を重ね、今回の導入実現に至りました。

奄美群島では、これまでの沖縄の自衛隊のヘリコプターによる緊急搬送体制に加え、昨年12月には関係者の努力によって奄美大島にドクターヘリの体制が拡充。そして、今回充実仕様のストレッチャーが搭載できる ATR42-600 型機が離島路線に就航します。離島の医療のために働く医師たちを頻りに運ぶことで離島の人々の命を支える JAC 便は、これまで以上に患者さんにもご利用いただき、これからの医療だけでなく、離島の生活に密着した体制で安定的な運航を行ってまいります。



鹿児島一屋久島、鹿児島一沖永良部の1日各1便から運航が開始される、ATR42-600型機。48人乗り。

■私たちが取り組むCSR活動に関する詳細は、こちらでもご覧いただけます。

www.jal.com/ja/csr/

■P9の「Embrace new Challenges JAL」でも、ATR42-600型機についてご紹介しています。

2015年9月、全国連加盟国（193カ国）により「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals: SDGs）」が採択されました。2030年までに、貧困や気候変動、平和的社会的などの17の目標を達成すべく、JALグループも社会課題の解決に取り組んでいます。



今回のテーマに当てはまる目標

